

「まちづくりハーモニー賞」 受賞者紹介



まちづくりハーモニー賞とは



協働のまちづくりを推進するため、以下の市民活動を行っている方を表彰する制度です。

- ・地域の特性を生かした創造性豊かな地域づくりや波及効果が期待できる活動
- ・魅力と活力あるまちづくりに先導的・先進的な役割を果たしている活動

受賞された皆さんの活動は、SDGs「持続可能な開発目標」のゴール達成にも寄与しています。

受賞者の活動は市ウェブサイトにて情報発信しています



市民活動実践部門 (五十音順)

公益財団法人金森和心会 クローバー子供図書館



HP



Face book



1952年に設立された全国的にも数が少ない私立図書館です。子ども達の健全な心の育成をはかるとともに、地域の方々の精神保健の充実に努めています。長年にわたり地域で親しまれ、親子三代で利用した方もいます。無料の図書貸し出しのほか、月に一度の絵本の読み聞かせや、年に数回の工作教室を実施しています。施設にはスロープや手すり、多目的トイレや授乳室が設けられており、ユニバーサルデザインの視点から誰もが利用しやすい配慮がされています。

【審査委員コメント】長年、市民に愛され続けてきた私設図書館であり、自らのリソースを広く市民にも公開してきたことに大きな敬意を表します。



こどもの心を育てるたくさんの本

郡山市共同受注ネットワーク

+DX
Googleフォームで
出欠確認

福祉的就労の価値を高め障がい者の工賃を向上させるため、複数の障害福祉サービス事業所が大口の仕事と一緒に請け負う「共同受注」の取り組みをしています。現在の最も大きな仕事は、郡山市からの敬老記念品であるお茶を封筒に入れる封入作業です。参加事業所も最初の2020年は5事業所でしたが、5年目の2024年は21事業所まで増え、事業所に通う障がい者にとってやりがいのある大きな仕事となりました。

【審査委員コメント】障がい者福祉事業と、民間企業をつなぐために有効な仕組み(ネットワーク)であり、大きな可能性を秘めた取り組みです。



力を合わせて福祉的就労の価値を高める

郡山自主夜間中学



市ウェブサイト

さまざまな年代の方の『学び直し』の場を設けています。小・中学校の教科・領域での学びの場や、外国籍や帰化した日本人向けの日本語教育の場などを提供、講師・受講者の年会費や助成金等で運営しています。郡山市教育委員会との共催で、市内8か所の公民館で、月2回、朝の9時から夜の9時までの間で開いており、どの地域に住んでいても仕事の都合があっても、受講しやすい形態で進められています。活動がスタートして3年目に入り、今後の活動の充実と継続が期待されています。

【審査委員コメント】多様な学びのあり方を考える上でも重要な取り組みです。情報発信や広報活動を強化し、継続してボランティアの協力が得られるのを期待します。



経験豊富なボランティア講師の皆さん

神明下町内会

インスタ
グラム



子ども食堂
(しんちゃんフームキッチン)



神明下町内会
(承認制・非公開)



町内会が大規模水害に備えてゴムボートを配備し、それを使って地区の消防団が避難訓練を実施するほか、有事には帝京安積高校体育館へ地域住民が垂直避難できるように高校と協定を結んでいます。また、神明下集会所で月に一度実施されている子ども食堂の運営にも、資金面だけでなく食材や場所の提供など全面的に協力しています。町内会と子ども食堂の新たな関係性のモデルとして、今後の活動に注目が集まっています。

【審査委員コメント】地元の方が生産した野菜などを使って子ども食堂を開催している点は持続可能性で優れており、防災や万が一の有事の際にも生かされると感じました。



集会所を会場にした子ども食堂

にこっと・ねっとわ〜く実行委員会

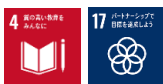
東日本大震災・福島第一原発事故後に子どもたちの屋外活動が制限された際、屋内でも楽しめるようにと塗り絵帳を作成・配布する企画を始めました。印刷会社2社と紙販売会社2社の社会貢献活動として、無償で配布しています。2024年は市内認可保育所等122施設に合計9,700部を配布し、オリジナルキャラクター「ムッツ」や郡山市イメージキャラクター「がくとくん」・「おんぷちゃん」を活用して子どもたちが楽しめる工夫をするとともに、裏面には復興へのメッセージを掲載しています。

【審査委員コメント】震災後からずっと続けてこられた活動中であり、継続性を高く評価します。厳しい時代の中でも続けてこられた活動への想いの強さを感じました。



「よくばり帳」を作成・配布しています

パソコン寺子屋安積野



主に地域の高齢者やパソコン初心者を対象に、パソコンについて気兼ねなく何度でも質問して学習できる場として、2012年から活動を始めました。パソコンの起動方法に始まり、SNSやSkypeなどの活用にもチャレンジしています。ICTの活用が得意な高齢者が苦手な高齢者に教えることでコミュニケーションが生まれ、ICTの推進及び高齢者の生きがいづくりに貢献しています。

【審査委員コメント】高齢化が進む中、デジタルデバイト、公民館利用などの問題解決につながる取り組みだと感じました。



和気あいあいとしたパソコンの勉強会

ふくしまの子供達に夢と元気を与える会



方言を交えたオリジナル体操でこどもを元気にするヒーロー「ダバイザー」として、2010年から活動しています。地域のアイデンティティを大切に郡山の方言を使ったオリジナルソングを制作、それに合わせた体操を広めることで、こども達の郡山への郷土愛の醸成と健康増進に貢献しています。幼稚園や保育所、地域のイベントでの体操やヒーローショーを行うことで、市内での知名度も高くなっています。

【審査委員コメント】ご当地ヒーローとして、すでに地域のこども達や大人達からも慕われており、今後の益々の活躍に期待します。



こども達を元気にする「ダバイザー」

舞木町まちづくり協議会



ブログ



次世代への魅力あるまちづくりを推進するため、2004年からJR舞木駅を基点とした地域活性化に取り組んでいます。駅周辺の「おさんぽマップ」を作成・配布するほか、駅周辺の環境整備として一年を通して季節の草花を植えたり、50年先を見据えて桜の苗木等を植樹しています。地元企業から無償で照明資材の提供を受ける「桜ライトアップ」事業は、各種メディアで取り上げられ多くの観光客が訪れるなど、舞木町の地域活性化に大きく貢献しています。

【審査委員コメント】各種メディアで取り上げられており、知名度は申し分ないです。JRや観光協会の協力もあり、深い交流や地域の発展にもつながる活動です。



舞木駅の桜ライトアップ事業をバックに

横塚町会



2022年から子供会と連携して、ごみ集積所ポスターの募集と集積所への掲示、親子地域清掃活動「芳賀の里きれいにし隊」を実施しています。活動は、燃えるゴミの排出量削減や集積所のマナー向上など、地域住民の環境意識の向上につながっています。また、親子で地域活動に参加することにより多世代による地域コミュニティの醸成が促進されるほか、学校で学習してきたSDGsの実践活動の場ともなっています。

【審査委員コメント】子供会の活動が全国的に衰退している中、町内会として積極的にこども達との関わりを創出し、地域愛着心を育む取り組みの協働性を高く評価します。



「芳賀の里きれいにし隊」の活動

市民活動応援部門

一般社団法人 **BeAHERO** (ビーアヒーロー)



活動拠点の東京に加え、子ども食堂やこども達の心身の健康を応援する活動を郡山市で行っています。代表が『特撮ヒーロー』を演じたことをきっかけに発足した団体で、郡山市こどもまつりでは子ども食堂ネットワークブースにて、本格的なアクション体験の機会を作りました。また積極的に市内のイベントやラジオに出演することで、全国に郡山市や子ども食堂の取り組みを知ってもらうきっかけ作りをしています。

【審査委員コメント】ヒーローを演じられた知名度の高さをいかした取り組みです。郡山の課題解決の一助につながってほしいです。



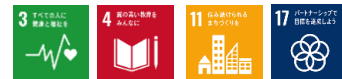
「ヒーロー」が子ども食堂を応援

青少年・学校部門

福島県立あぶくま支援学校 農園芸班・清掃班



HP



2024年、農園芸班は緑ヶ丘地区の住民を主な対象とした野菜の販売会「あぶくまFARM マルシェ」を実施し、また清掃班は近隣の緑ヶ丘第一小学校の校舎外の窓清掃を実施して、学校の学びを活かした地域貢献活動をしました。生徒たちの「自分たちの野菜を地域で販売したい」「清掃の技術を地域に活かしたい」という思いに、教員や地域の方が賛同し実現しました。ユニバーサルデザインのまちづくりにつながる活動です。

【審査委員コメント】生徒さんのチャレンジが地域の方にダイレクトに伝わる取り組みです。地域の間で取り組みがより周知されていてほしいです。



上：農園芸班 下：清掃班 集合写真

イベント部門 (五十音順)

ふくしまフードフェス実行委員会



HP



Face
book



インスタ
グラム



福島にこだわる農家・酒蔵・飲食店が、その日限りの特別コラボメニューを開発して販売・提供するイベント「ふくしまフードフェス」を、2018年から企画・運営しています。2024年に出店チームに参加した農家・酒蔵・飲食店は43事業者、来場者数は2日間で9,000人と大いに盛り上がり、福島県出身のアーティスト等のステージやペイ・フォワード制度の導入など、参加者が一体となる仕組みづくりを行っています。
※ペイ・フォワード…自分が受けた善意を他の誰かに渡すこと。恩送り。

【審査委員コメント】業界全体が力を合わせて地域の魅力を創出する活動は、とても先進的であり、市民に愛されるイベントとして、継続してしてほしいです。



出店チームと実行委員会で集合写真

緑ヶ丘夏祭り実行委員会



HP



緑ヶ丘地区は市内では比較的新しい地域であり、「こども達が帰ってきたいと思うふるさとを作りたい」という思いから、1996年より地域が一丸となって盛大な夏祭りを実施してきました。参加者は毎年6,000人近く、夏祭りに合わせて帰郡する人々も多い一大イベントです。また、冬の緑ヶ丘地区を盛り上げようと、2022年から地域の幼稚園の協力を得て緑ヶ丘イルミネーションプロジェクトも実施しています。

【審査委員コメント】緑ヶ丘地区に限らず他の地域も参加しており、人口が減っているほかの地域でも再現性が高いものと考えます。



中学生による神輿の渡御

【審査委員】郡山市市民協働のまちづくり推進協議会 市民活動推進顕彰事業専門部会

部会長	三部 香奈	(一社)グロウイングクラウド代表理事
	中潟 亮兵	おおせのとおり、郡山逢瀬ふじみ野net文京スマイル代表
	武田 汐理	福島民報社郡山本社
	津村 謡	福島民友新聞社郡山総支社
	大岡 桂子	(特非)こおりやま子ども若者ネットワーク理事、チャイルドラインこおりやま